

- D 広葉 葉表は生時に特に皺状ではない
E (中脈除く)葉は両面ほぼ無毛か少毛 葉裏中脈に毛残らず?

F近畿以西、山地-丘陵 新枝は初め疎毛あり 葉は厚質;中脈・側脈・細脈は裏凸、肋脈状に低く裏凸
葉表は無毛、中脈は微毛やや多く、後基部に微毛残る;葉裏は無毛、中脈は疎毛散在、後無毛【ヤマヤナギ節】
(SGOHY、近畿以西、四九では普通、山地-丘陵)(低木-小高木;葉233広)【34ヤマヤナギ】

新葉は脱落性毛にやや被われる 若葉は両面に伏絹毛密生
葉表は無毛、中脈は微毛やや多 基部に微毛残
葉裏は無毛、中脈は疎毛散在 無毛 葉裏は無毛、または細毛が残る
表は緑;裏白味ある青灰色-やや粉白
中脈は両凸;生時に表は側脈凹、細脈はやや凹感(押葉で平坦);裏は中脈・側脈・細脈が裏凸、肋脈低く凸
波鋸歯-低鋸歯;腺先は下(縁)向き
葉は被針楕円-楕円形、80-140mm、巾25-50mm
葉柄上面は多毛 微毛残 葉柄10-20mm
托葉は鋭頭、広被針(曲)形、鋸歯縁、無毛;基部に腺少数密集
新葉の側縁は巻かず
新枝は疎毛 無毛 若枝はピロード状密毛、後次第に無毛

(Y;西日本でヤナギといえば本種、山間部に非常に多い;葉形はミヤマヤナギ似だが分布域が異なる)
(H;ナガボノヤマヤナギ、ダイセンヤナギ、ツクシヤマヤナギ、オクヤマヤナギなど発表されているが、
なにぶんヤマヤナギ類は変異が多く、これらを独立種とするべきかは今後の研究を待つ他はない)
(M48;ヤマヤナギ節は近畿以西にあり10種相当が記載されるが、これからの研究により数種ないし
1種数変種に纏められると考えられる)(Y前記類似品に対し;いずれもヤマヤナギの変異のなかに入る)

《S0以外は区別しておらず、以下にS0検索表を示す》

(参考;S検索表)

D葉は広楕円形又は倒卵形.

E葉は小形膜質で下面は灰白色を帯びて、脈上に密毛がある。花柱は中長で、腺体は小さくて卵形
(SHY、近畿以西、山地)(低木)【オクヤマヤナギ】

E葉は大形で革質、九州産.

F成葉は無毛。花序は長い、雄穂の長さ4~7.5cm。雌穂の長さ3~5cm。花柱はやや長い
(SOHY、九、山地)(低木、葉2広) 腺体は線形【ナガボノヤマヤナギ=ハシカエリヤナギ】

F成葉は下面に毛残る。花序は短く雄穂の長さ2.5~4cm、雌穂の長さ2.5~3cm、花柱は短い
(SOHY、九、山地)(低木、葉2広)【ツクシヤマヤナギ】

D葉は狭楕円形に近い形.

E葉裏は毛多く殊に中央部に褐色綿毛がある(S、宮崎、鹿児島)(低木)【サツマヤナギ】

E葉裏は後無毛となるか中肋のみ毛が残る.

F苞は線状長楕円形。子房は狭披針形(S、九、山地)(低木)【ホソバヤマヤナギ】

F苞は卵形又は倒卵形で先は鈍円形。花穂は長く雄穂の長さ3~3.5cm、有梗。雌穂の長さ約3cm位
【ヤマヤナギ】

(参考;O検索表)

C雄しべは1個、または同花序中に2個のものが混じる。苞は鈍頭。葉は長楕円

D雄花穂は長さ40-70mm、巾4mm、雄しべは1-2個、腺体は円柱状に伸張り、苞は全体が濃色、雌花穂は長さ30-40mm

葉は菱状長楕円形または倒卵形(SOHY、九、山地)(低木、葉2広)【ハシカエリヤナギ=ナガボノヤマヤナギ】

D雄花穂は長さ25-40mm、巾6-10mm、腺体は卵形、苞は上部のみが濃色、雌花穂は長さ20-25mm

E雄しべはただ1個、苞は短い密毛がある。子房は柄および腺体と同長である。葉は楕円形または狭倒卵形である
(SOHY、九、山地)(低木、葉2広)【ツクシヤマヤナギ】

E雄しべは1-2個、苞は長毛を著しく密生する。子房は非常に長い柄がある。葉は狭長楕円形【ヤマヤナギ】